

L I M

タクシー

8月5日は「タクシーの日」。

これは、大正元年8月5日に東京の有楽町で「タクシー自動車株式会社」が営業を始めたことに由来しています。

当時はT型フォード（モデルT）6台にタクシーメーターを付けて営業を開始したそうです。

このことを記念し平成元年にタクシーの日が制定されました。

日本でタクシーが登場してから100年以上、現在のタクシー会社は特定用途になる福祉タクシーを除くと、およそ6,200社。台数は個人タクシーを含めると224,000台以上にまでなりました。

今月はそんなタクシーのあれこれをみていきましょう。

タクシーのシートは水洗いができます

タクシーの内装は一部の個人タクシーを除いて、ほとんどが合成皮革のビニールレザー。

これは、深夜、早朝などで酔客を乗せる機会が多いため、座席を汚されても水洗いして清掃ができるようにとの配慮から。

自動車メーカーが製造するタクシー専用車種では標準の装備になっています。

配車アプリの普及は？

国内の一部地域でサービスが開始されている配車アプリ。主にUber（アメリカ）とLINE TAXI（韓国）が展開中です。Uberではグレードの高い車種を選択できるサービスがあるほか、ハイヤーの業務を担当している運転士が担当するなど質を重視しています。

一方でLINE TAXIはすでに普及したLINE Payを利用するということもあり、3割を超えるリピート率が特徴です。



タクシーとハイヤーの違いは？

タクシーと似ている「ハイヤー」。

車によっては同じ緑ナンバーのため区別しにくいのですが、明確な違いがあります。

タクシーは指定乗り場や無線配車、街中で乗客を拾う「流し」で営業を行うのに対し、ハイヤーの場合は営業所への事前予約が必要となります。

また料金体系にも違いがあり「乗車地」→「降車地」で課金されるタクシーに対し、ハイヤーは貸切バスと同じく「出庫」→「乗車」→「降車」→「帰庫」までが課金対象となります。装備面ではタクシーで「中型」と呼ばれる、各メーカーの高級車を使用していることが多く、貸切運用のため行灯や料金メーターなどがなくとも特徴と言えるでしょう。

